

卓 話

平成15年11月4日

健康診査の結果について

上松 治義 会員

10月21日に行われました健康診査の結果につき、ご説明します。

- 1) 動脈硬化のために大動脈が硬くなっていると最高血圧が上昇します。また血液が末梢に流れにくい状態になっていると最低血圧が上がります。高い血圧が持続しているのを放置しておくと動脈硬化、脳卒中、心臓病、腎臓病の原因となります。高血圧には原因不明の本能性高血圧症と原因が明らかな二次性高血圧（内分泌の病気や腎臓病などによって起こる高血圧症）があります。
- 2) 肝機能検査は、肝細胞に障害が生ずるとすぐ血液中に流れ出てくる酵素の値をみており、肝臓病の早期発見に役立ちます。特に γ -GTP はアルコールの影響を受けやすく、アルコールを多飲される方はご注意ください。同様の所見は高脂血症に伴う脂肪肝でもみられます。またウイルス性肝炎の既往による肝機能障害も多く、慢性肝炎から肝硬変に移行することも多く、肝機能が異常の方はエコー（超音波）やCT検査などを受けられるとよいでしょう。
- 3) 血清アミラーゼの増加による高アミラーゼ血症は急性膵炎、膵癌などの膵疾患を鑑別します。
- 4) 腎機能は尿素窒素、クレアチニンなど体内に残った老廃物質の値によって診断します。蛋白尿や血尿の存在の有無を調べる必要もあります。
- 5) 総コレステロール、中性脂肪の高値は血管壁にアテロームが蓄積して動脈硬化を引き起こす危険性があります。またHDLコレステロールは善玉のコレステロールといわれ、低値となることが動脈硬化の危険因子ともされ、喫煙、運動不足、肥満などにより、低下する傾向にあります。
- 6) 尿酸はプリン体の終末産物で、酸性食品とアルコールの摂りすぎにより、高くなる傾向にあり、主として痛風の診断に役立ちます。また、腎結石の原因ともなります。
- 7) 膵臓で分泌されるインスリンというホルモンの働きが低下することにより起こる



病気が糖尿病です。高血糖の状態が長く続くと眼底出血、腎臓障害、手足のしびれなどの症状が現れ、進行すると重大な合併症を引き起こすことがあります。自覚症状がないうちに血糖を正常にして、その状態を維持することが肝心です。

- 8) 血液中のPSA（前立腺特異抗原）とは前立腺の組織で作られる物質で、正常でも血液にごくわずかに存在しています。前立腺がんが発生すると血液中のPSAが増加し、前立腺がんの早期発見の手がかりを得ることができます。
- 9) 貧血が存在する時には、その原因を調べる必要があります。赤血球をつくるのに必要な鉄分や葉酸、ビタミンB12が不足すると貧血になりますが、一番多いのは鉄欠乏性貧血です。偏食などにより鉄分の摂取が少ない時や、出血が少しずつあって血液をつくるのが間に合わない時におこります。特に消化器系の精査によりその原因を確かめる必要があります。

現在日本人の死因の約6割が、がん、心疾患、脳血管疾患に代表される「生活習慣病」で占められています。これらの疾病の多くは過労、ストレスあるいは不摂生な生活習慣の積み重ねによって発病することが様々な研究でわかってきました。「自分の健康は自分で守る」という自覚をもって、よりよい生活習慣を身につけていただきたいものです。